

大学教育プログラム

在宅医療・福祉コンソーシアム長崎 大学間単位互換科目の開発年次計画

科目名	コーディネート科目	学年	授業方法	区分	開講主担当	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
「在宅がん治療概論」	○	低学年	講義 (オムニバス)	合同授業 (基礎力)	長崎大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「在宅ケア概論」	○	低学年	講義 (オムニバス)	合同授業 (基礎力)	長崎大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「在宅緩和ケア概論」	○	低学年	講義 (オムニバス)	合同授業 (基礎力)	長崎県立大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「在宅医療概論」	○	低学年	講義 (オムニバス)	合同授業 (基礎力)	長崎国際大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「地域包括ケア概論」	○	低学年	講義 (オムニバス)	合同授業 (基礎力)	長崎国際大学			[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、 充実化を図る。	
「在宅チーム医療 早期体験学習」	○	低学年	実習	合同実習 (動機付け)	長崎大学 長崎県立大学 長崎国際大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「地域包括ケア 早期体験学習」	○	低学年	実習	合同実習 (動機付け)	長崎大学 長崎県立大学 長崎国際大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「薬物治療実践学」	—	高学年	講義 (オムニバス)	合同授業 (応用力)	長崎大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「在宅看護論」	—	高学年	講義 (オムニバス)	合同授業 (応用力)	長崎県立大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「在宅がん治療特論」	○	高学年	演習 (模擬カンファ)	合同授業 (応用力)	長崎大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「在宅緩和ケア特論」	○	高学年	演習 (模擬カンファ)	合同授業 (応用力)	長崎県立大学			[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、 充実化を図る。	
「地域包括ケア特論」	○	高学年	演習 (模擬カンファ)	合同授業 (応用力)	長崎国際大学			[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、 充実化を図る。	
「在宅がん医療・ 緩和ケア合同実習」	○	高学年	実習	合同実習 (実践力)	長崎大学 長崎県立大学 長崎国際大学	3月6～8日に 小規模トライアル 実施	2月～3月に 大規模トライアル 実施予定	[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、 充実化を図る。	

科目のモジュール化 ↓ 大学間単位互換プログラムの体系化

講義 実習 演習

NICEキャンパス長崎について

「NICEキャンパス長崎」は、平成13年度からスタートした単位互換制度で、長崎県内全ての大学、短期大学及び高等専門学校が参加している。「NICE」の名称は、Nagasaki Intercollegiate (大学間) Credit (単位) Exchange (互換) の頭文字である。

単位互換制度は、各大学等が提供している授業科目(コーディネート科目、教養科目、専門科目)の中から、希望する科目を履修し、科目開設大学で単位を修得すれば所属大学の単位として認定される制度である。

※コーディネート科目

単位互換用に新たに開設する科目で、開講大学が設定した長崎らしいものや時事的なものをテーマに、他の大学の教員や、実業界で活躍されている方の協力を得て、オムニバス形式で講義を行う。



「NICEキャンパス長崎」
2013年度学生募集ガイド

合同授業（基礎力）

「在宅がん治療概論（多職種協働による在宅がん治療を考える）」

概要

在宅がん治療の基礎知識、在宅がん治療に携わるそれぞれの職種の職能、各職能がどのように連携して在宅がん治療に取り組んでいるかについて学習する。講義はオムニバス形式で行う。

科目

開講期間：平成25年4月11日（木）～平成25年7月18日（木）

開講時間：18：30～20：00（90分）

開講場所：長崎大学薬学部2階 第2講義室

単 位：2単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生、一般社会人

カリキュラム・講師

回	月日	内 容	講 師
1	4月11日	オリエンテーション・がん患者の在宅療養支援	中嶋 幹郎（長崎大学薬学部）
2	4月18日	がん看護における看護師の役割	中嶋 由紀子（長崎大学病院がん診療センター）
3	4月25日	がん診療における医師の役割	芦澤 和人（長崎大学病院がん診療センター）
4	5月 2日	がん治療における多職種協働	手嶋 無限（開生薬局）
5	5月 9日	在宅がん治療における医師の役割①	安武 亨（長崎大学医学部医学科）
6	5月16日	在宅がん治療における医師の役割②	山之内 孝彰（長崎大学医学部医学科）
7	5月23日	在宅がん治療における看護師の役割①	楠葉 洋子（長崎大学医学部保健学科）
8	5月30日	在宅がん治療における看護師の役割②	楠葉 洋子（長崎大学医学部保健学科）
9	6月 6日	在宅がん治療における薬剤師の役割①	中嶋 幹郎（長崎大学薬学部）
10	6月13日	在宅がん治療における薬剤師の役割②	江頭 かの子（長崎大学薬学部）
11	6月20日	在宅がん治療における歯科医師の役割①	齋藤 俊行（長崎大学歯学部）
12	6月27日	在宅がん治療における歯科医師の役割②	介田 圭（長崎大学歯学部）
13	7月 4日	在宅がん治療における栄養管理	駿河 和仁（長崎県立大学看護栄養学部栄養健康学科）
14	7月11日	在宅がん治療における地域リハビリテーション	松坂 誠應（長崎大学医学部保健学科）
15	7月18日	がん患者が望む多職種協働による在宅療養支援	黒岩 かをる（医療コミュニケーション薫陶塾）

履修生内訳

所 属		人 数
長崎大学	医学部（保健学科）	4名
	歯学部（歯学科）	1名
	薬学部（薬学科・薬科学科）	9名
合計		14名

聴講生内訳

所 属		人 数
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科		4名
合計		4名



受講生の感想（一部抜粋）

- 患者さんの多くは、症状が重くとも少しでも長い時間を自宅で、また最期も自宅で迎えたいと考えていると思うので、在宅療養支援は積極的に進めていくべきである。（薬学生）
- ケアは薬剤師と看護師で視点が違うので、やはり連携することで多方面からの治療が見えてくると思った。（看護学生）
- 栄養管理や最後まで食べることの大切さなどはいろいろ学んできたが、その評価の仕方や管理方法については今回初めてここまで詳しく学んだ。薬物治療を行っていても、栄養状態が悪ければQOLの向上には繋がらないと思うので、積極的に行っていくべきだと感じた。（薬学生）
- 今回履修して、専門職において他の職種のことを知るにより、患者さんにどのようにアプローチをしていくかのパターンが増え、且つより専門性の高い知識を得ようと意識するようになった。（歯学生）

「在宅ケア概論（多職種協働による在宅チームアプローチを考える）」

概要

在宅療養支援に携わるそれぞれの職種の職能について、また各職能がどのように連携して在宅チーム医療を行っているかが理解できるオムニバス形式の講義

科目

開講期間：平成25年10月3日（木）～平成26年1月27日（月）

開講時間：18：30～20：00（90分）

開講場所：長崎大学薬学部2階 第2講義室

単 位：2単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生、一般聴講生

カリキュラム・講師

回	月日	内 容	講 師
1	10月3日	オリエンテーション・在宅療養支援概論	中嶋 幹郎（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科）
2	10月10日	在宅療養支援における介護支援専門員の役割	大町 いづみ（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科）
3	10月17日 ^{※1}	在宅療養支援における緩和ケア	奥平 定之（認定NPO法人長崎在宅Dr.ネット） （奥平外科医院）
4	10月24日	在宅療養支援における地域医療連携（概論）	川崎 浩二（長崎大学病院地域医療連携センター）
5	10月31日	在宅療養支援における地域医療連携の実際 （看護師ならびに医療ソーシャルワーカーの立場から）	宮地 登代子（長崎大学病院地域医療連携センター） 向田 圭介（長崎大学病院地域医療連携センター）
6	11月7日	在宅療養支援における介護専門職の役割	堀部 和貴（長崎県介護福祉士会）
7	11月14日 ^{※1}	在宅療養支援における医師の役割	藤井 卓（認定NPO法人長崎在宅Dr.ネット） （藤井外科医院）
8	11月21日	在宅療養支援における看護職の役割	中尾 八重子（長崎県立大学看護栄養学部）
9	11月28日	在宅療養支援における訪問リハビリの役割	本田 憲一（長崎リハビリテーション病院）
10	12月5日	在宅療養支援における薬剤師の役割	手嶋 無限（開生薬局）
11	12月12日	在宅療養支援における管理栄養士の役割	武藤 慶子（長崎県立大学看護栄養学部）
12	12月19日	在宅療養支援における歯科医師の役割	角町 正勝（角町歯科医院）
13	1月9日	在宅療養支援における歯科衛生士の役割	猪野 恵美（長崎県歯科衛生士会）
14	1月16日	在宅療養支援における認知症	河口 朝子（長崎県立大学看護栄養学部）
15	1月27日 ^{※2}	在宅療養支援における行政の役割	向原 茂明（杵崎市立杵岐市民病院）

※1：10月17日と11月14日は19:00～20:30（90分）

※2：1月27日のみ月曜日に開講

履修生内訳

所 属		人 数
長崎大学	歯学部（歯学科）	2名
	薬学部（薬学科・薬科学科）	15名
長崎県立大学	国際情報学部（情報メディア学科）	1名
合計		18名

聴講生内訳

所 属		人 数
長崎大学	医学部（医学科）	9名
長崎大学大学院	医歯薬学総合研究科	1名
合計		10名

一般社会人内訳

所 属	人 数
看護職	1名
一般	1名
合計	2名



受講生の感想（一部抜粋）

- 在宅療養支援に医師として積極的に参加する時に、現場で医師に求められることなど今回の講義で学んだこと以外にも目を向けていきたい。そして学んだことから視野を広げて学習に励みたい。（医学生）
- 地域医療において、各医療機関が連携する上で、すでに連携のための機関やシステムが存在しており、それが充実していることに驚いた。アセスメントでもフォーマットができており、共通認識ができるという点でかなり信頼のおけるものになっているのではないかと感じた。（薬学生）
- 病院と在宅医療の相違点から、本人にとって最良と思われる療養の方法を選ぶことが大切だと思った。（歯学生）
- 在宅療養支援における緩和ケアは、全ての疾患において必要であり、基盤になると考える。病院でも在宅でも同じ思いで患者さんやご家族と関わるといいと思う。（一般社会人）

「在宅緩和ケア概論」

概要

在宅緩和ケアの基礎知識、在宅緩和ケアに携わるそれぞれの職能、また各職種がどのようにして連携し在宅緩和ケアに取り組んでいるかについて学習する。講義はオムニバス形式で行う。

科目

開講期間：平成25年10月2日（水）～平成26年1月22日（水）

開講時間：18：00～19：30（90分）

開講場所：長崎県立大学シーボルト校中央棟M103・M104教室

単 位：2単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生、一般社会人

カリキュラム・講師

回	月日	内 容	講 師
1	10月2日	オリエンテーション・在宅緩和ケアの現状と課題	吉原 律子（長崎県立大学看護栄養学部看護学科）
2	10月9日	在宅緩和ケアの基礎知識	吉原 律子（長崎県立大学看護栄養学部看護学科）
3	10月16日	ホスピスケア	益富 美津代（聖フランシスコ病院ホスピス病棟）
4	10月23日	在宅緩和ケアとがん診療	山之内 孝彰（長崎大学医学部医学科）
5	10月30日	在宅医療における情報通信の活用	前村 葉子（長崎県立大学国際情報学部）
6	11月6日	在宅緩和ケアにおける医師の役割	中尾 勤一郎（認定NPO法人長崎在宅Dr.ネット） （ホーム・ホスピス中尾クリニック）
7	11月13日	在宅緩和ケアにおける看護師の役割	吉原 律子（長崎県立大学看護栄養学部看護学科）
8	11月20日	在宅緩和ケアにおける薬剤師の役割	手嶋 無限（開生薬局）
9	11月27日	在宅緩和ケアにおける管理栄養士の役割	武藤 慶子（長崎県立大学看護栄養学部栄養健康学科）
10	12月4日	在宅緩和ケアにおける地域医療連携（概論）	川崎 浩二（長崎大学病院地域医療連携センター）
11	12月11日	在宅緩和ケアにおける地域医療連携の実際 （看護師と医療ソーシャルワーカーの立場から）	宮地 登代子（長崎大学病院地域医療連携センター） 向田 圭介（長崎大学病院地域医療連携センター）
12	12月20日 [※]	在宅緩和ケアにおける行政の役割	向原 茂明（壱岐市立壱岐市民病院）
13	1月8日	在宅緩和ケアにおける歯科医師の役割	介田 圭（長崎大学歯学部）
14	1月15日	在宅緩和ケアで用いられる薬剤	手嶋 無限（開生薬局）
15	1月22日	在宅緩和ケアにおける死生観	内村 公義 （NPO法人ウエスレヤン・コミュニティカレッジ）

※12月20日のみ金曜日開講

履修生内訳

所 属		人 数
長崎県立大学	看護栄養学部（看護学科・栄養健康学科）	32名
長崎大学	歯学部（歯学科）	1名
合計		33名

聴講生内訳

所 属		人 数
長崎県立大学	看護栄養学部（栄養健康学科）	2名
合計		2名

一般社会人内訳

所 属	人 数	所 属	人 数
医師	3名	ヘルパー	3名
看護師（長崎県立大学教員含む）	6名	病院事務	1名
理学療法士	1名	グリーンケアアドバイザー	1名
訪問介護管理者	1名	一般	9名
ケアマネジャー	5名		
合計			30名



受講生の感想（一部抜粋）

- 普段考えることのない死について深く考えさせられるお話でした。死は誰にでも必ず訪れるものであり、いつ自分や自分の家族におこるかかわからないからこそ、自分のことも家族や周りの人のことも大切にしたいと思いました。（栄養学生）
- 自宅で過ごしたいという気持ちを抱くことはとても良くわかる。特に病で苦しむ時に身近な人と同じ日常生活を送るといことは患者の人生にとってとても有益な時間になると思う。より多くの人に緩和ケアを知ってもらう機会を作っていくことが大切だと思った。（歯学生）
- 在宅緩和ケアとその人らしい生活の中で、患者と看護師、家族の間に信頼関係が生まれます。患者は家では自由であり「生きている」実感を味わうことができます。そのような生活を患者さんに送ってほしいし、自分がその立場でもそうしたいです。しかし、そのためには看護師の正しい判断や責任が重要です。難しいことですが、よい医療を患者に提供したいと思いました。（看護学生）

「在宅医療概論」

概要

在宅医療に携わる各職種また各職能が連携し、患者に対してどのようなアプローチを行うかについて学習する。講義はオムニバス形式で行う。

科目

開講期間：平成25年9月28日（土）～平成26年1月11日（土）

開講時間：9：00～10：30、10：40～12：10（各90分）

開講場所：長崎国際大学3303・6103・6104教室

単 位：2単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生、一般社会人

カリキュラム・講師

回	月日	内 容	講 師
1	9月28日	在宅医療にかかわる多くの専門職と専門職連携の重要性	岩下 淳二（長崎国際大学薬学部）
2	10月5日	在宅医療における行政のサポート	下平 和子（佐世保市保健福祉部長寿社会課）
3	10月5日	在宅医療におけるケアマネージメントとソーシャルワーク	山本 主税（長崎国際大学人間社会学部）
4	10月12日	在宅医療におけるヘルスカウンセリング	古賀 義（長崎国際大学人間社会学部）
5	10月12日	在宅医療における薬局薬剤師の役割	徳永 修（あなず薬局）
6	10月19日	在宅医療における歯科医師の役割	畳屋 文人（佐世保市歯科医師会）
7	10月19日	在宅医療における医師の役割	矢野 捷介（長崎国際大学健康管理学部）
8	11月16日	在宅医療における介護福祉士・社会福祉士の役割	山崎 久子（長崎国際大学人間社会学部）
9	11月16日	在宅医療における薬剤師の役割	七嶋 和孝（ななしま薬局）
10	12月7日	在宅医療における看護師の役割	新川 哲子（長崎大学医学部保健学科）
11	12月7日	在宅医療における管理栄養士の役割	林 俊介（長崎国際大学健康管理学部）
12	12月21日	在宅医療における病院薬剤師の役割	川崎 浩一 （国家公務員共済組合連合会佐世保共済病院）
13	12月21日	在宅医療における健康サポート	熊谷 賢哉（長崎国際大学人間社会学部）
14	1月11日	在宅医療における調剤と薬の知識	仮屋 博子（長崎国際大学薬学部）
15	1月11日	在宅医療における緩和ケアの知識	山田 勝士（長崎国際大学薬学部）

履修生内訳

所 属		人 数
長崎国際大学	薬学部（薬学科）	87名
	健康管理学部（健康栄養学科）	1名
	人間社会学部（社会福祉学科・国際観光学科）	7名
合計		95名

一般社会人内訳

所 属	人 数
医師	2名
看護職	1名
ケアマネージャー	2名
合計	5名



受講生の感想（一部抜粋）

- 在宅医療に関係する職種間の連携、また病院や施設との連携もしっかり深め、患者さんを全体で支えていけるような薬剤師になりたいと思った。（薬学生）
- 一人の介護に際して、こんなに多くの専門職の方が関わっていると知り、やはり連携はとても大切であると感じた。（栄養学生）
- QOL向上のためには、生活を支える介護と健康を支える医療が連携し、その患者さんに合った方法をその都度考えていく必要があると思う。（薬学生）
- 在宅医療は高齢者だけでなく、病気のため余命が短い患者さんとも関わっていくことを知り、中途半端な気持ちではできないと思った。患者さんの残された時間を少しでも良いものにできるよう、全力を尽くせるようなソーシャルワーカーになりたいと思った。（社会福祉学生）

合同実習（動機付け）

「在宅チーム医療早期体験学習」

概要

大学・学部間の垣根を越えて、地域の訪問看護ステーション、薬局等の施設担当者とともに在宅療養者宅への同行を通し、在宅療養支援の実際を知ること、多職種協働によるチームアプローチの重要性を考える。

一般目標

在宅療養者が必要とするケアに対して、地域の保健・医療・福祉チームがどのように連携し療養支援を行っているかを理解する。

行動目標

- ①在宅療養者およびその家族が必要としている様々なケアの内容について述べる（知識）
- ②在宅療養者を中心にしてどのような職種が関わっているかについて述べる（知識）
- ③地域における薬局・訪問看護ステーションの目的やチーム医療における役割について述べる（知識）
- ④学外で学ぶ上で、学生としての適切な態度・マナーに配慮する（態度）
- ⑤グループで学習成果をまとめ、学習プロセスを共有し討議する（態度）

科目

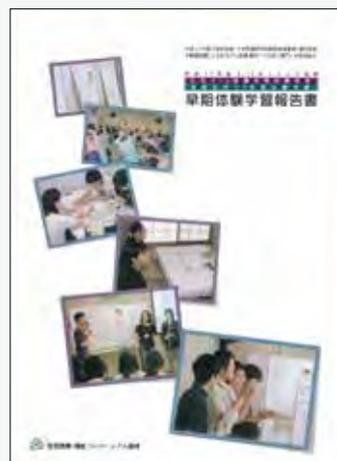
開講期間：平成25年8月29日（木）～8月30日（金）

1泊2日の宿泊型

開講場所：長崎大学薬学部、訪問看護ステーション、薬局

単 位：1単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生で、医療・保健・福祉・介護等の学科を専攻している1年次以上の学生



平成25年度「NICEキャンパス長崎」
早期体験学習報告書

日程

8月29日（木）	8月30日（金）
8:30～ 合同オリエンテーション	6:30～ 起床
10:00～ 施設での体験学習 (訪問看護ステーション、薬局)	7:00～ 朝食、整理整頓など
17:00～ 宿泊施設へ移動 (宿泊先:長崎市日吉青年の家)	8:20～ 長崎大学薬学部へ移動
18:00～ 夕食	9:00～ グループワーク、ポスター作成
19:00～ セミナー	12:00～ 昼食
21:00～ グループワーク	13:00～ 学習報告会発表準備
22:30 就寝	13:30～ 学習報告会
	16:15～ 写真撮影
	16:30 解散

参加学生内訳

所 属		人 数
長崎大学	医学部（医学科、保健学科）	5名
	歯学部（歯学科）	3名
	薬学部（薬学科）	2名
長崎県立大学	看護栄養学部（看護学科、栄養健康学科）	17名
長崎国際大学	薬学部（薬学科）	3名
	健康管理学部（健康栄養学科）	2名
	人間社会学部（社会福祉学科）	4名
長崎国際大学大学院	健康管理学研究科（健康管理学専攻）	1名
活水女子大学	看護学部（看護学科）	2名
合計		39名



受講生の感想（一部抜粋・編集）

- 今回の学習で、在宅療養者とその家族が必要としているものは医療行為だけでなく、自宅で安心した生活を送るための多面的な支えであることを学んだ。訪問看護師との信頼関係もその支えのひとつであったと思う。また、在宅医療の中で、医師は医療行為の方針を決める責任ある役割を担っていることも学んだ。（医学生）
- 今回様々な学科の方と意見を交換できたのはとても良い体験になったので、これからも看護の枠にとらわれずに、いろいろな意見を聞いて、視野を広げていきたいと感じた。（保健学生）
- 訪問看護ステーションの所長さんは、訪問看護をする時に最も大切なことは「人と人とのつながり」で、目の前の患者さんは寝たきりかもしれないけど、人生の大先輩で尊敬の念や敬意を払うことを忘れてはいけないと仰っており、大切な心の持ち方を教えていただいた。また、患者さんが安心して安全に生活するために多職種との連携が必要であると学び、これは在宅ケアで最も大切なことだと感じた。（栄養学生）
- 訪問看護師の仕事を実際に見学し、看護師さんは話し方も自然で会話の中で体の具合や食べた物を聴いていて、楽しくはずむような雰囲気が印象的だった。初めて知ることばかりで、多職種と連携をとる上では、社会福祉や介護の知識や技術のみでは対応できないことが実感できた。（社会福祉学生）
- 病院が体の治療を焦点としているならば、在宅医療での焦点は心のケアということもできる。患者の状態や薬の管理をしつつ、これからの生活を向上させるため、患者・家族と意見交換をし実現に向けて力を入れ、その助けとなるのが在宅医療における薬剤師の役割だと言えるだろう。（薬学生）

「地域包括ケア早期体験学習」

目的

地域の在宅医療支援施設の担当者とともに在宅療養者宅への同行や地域包括支援センターの実務を学ぶことを通し、在宅療養支援の実際を知ることで、多職種協働によるチームアプローチの重要性を考える。

一般目標

高齢者をはじめとする地域住民の保健・医療・福祉・介護ニーズに対して、地域包括支援センターが果たしている役割や、地域の関係機関と専門職がどのように連携し支援を行っているのかを理解する。

行動目標

- ①地域包括支援センターの4つの機能（総合相談、権利擁護、介護予防マネジメント、包括的・継続的ケアマネジメント）とその地域の特性について理解する。（知識）
- ②地域の高齢者を中心に、どのような機関や専門職、非専門職が関わっているかについて述べる（知識）
- ③学外で学ぶ上で、学生としての適切な態度・マナーに配慮する（態度）
- ④グループで学習成果をまとめ、学習プロセスを共有し討議する（態度）

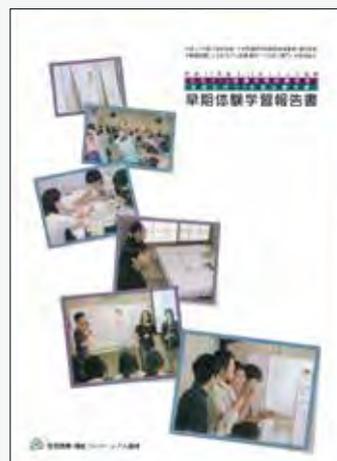
科目

開講期間：平成25年9月18日（水）～平成25年9月19日（木）

開講場所：長崎大学薬学部、長崎市内の地域包括支援センター

単 位：1単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生で、医療・保健・福祉・介護等の学科を専攻している1年次以上の学生



平成25年度「NICEキャンパス長崎」
早期体験学習報告書

日程

9月18日（水）	9月19日（木）
8:30～ 合同オリエンテーション	8:30～ 学生受付
11:30～ 昼食(移動時間含む)	9:00～ グループワーク、ポスター作成
13:00～ 施設での体験学習 (地域包括支援センター)	12:00～ 長崎大学薬学部へ移動
17:00～ 長崎大学薬学部で点呼、解散	13:00～ 学習報告会発表準備
	14:00～ 学習報告会
	15:30～ 写真撮影
	16:30 解散

参加学生内訳

所 属		人 数
長崎大学	医学部（保健学科）	1名
	歯学部（歯学科）	4名
長崎県立大学	看護栄養学部（看護学科、栄養健康学科）	12名
長崎国際大学	薬学部（薬学科）	6名
	人間社会学部（社会福祉学科）	4名
活水女子大学	看護学部（看護学科）	2名
合計		29名



受講生の感想（一部抜粋・編集）

- 居宅訪問では、実際に坂を歩いて上り、地域によっては外出がとても大変であることを身をもって感じた。地域包括支援センターの方が歩いていると手を振ったりしてくれる地域の方もいて、地域に浸透していると感じた。しかし、その中に若い世代はいなかったのも私たちの代ももっと頑張らなければならないと感じた。オープンカンファレンスでは職種によって考え方が少し異なるということを感じたため、多職種でディスカッションし、理解を深めることのできる場は大切だと思った。（看護学生）
- 地域包括支援センター、地域連携室、社会福祉協議会の役割について自分の中で区別できずにいたので、違いを教えてくださいました。地域包括支援センターは様々な相談の窓口でもあり、それに対する専門的側面からのアプローチだけでなく、地域を支援するサポーターでもあることを知ることができた。相談者と必要な機関やサービスを結び付ける仲介役を担っているのも、行政・医療機関社会福祉協議会・地域のキーパーソンなど横との関わりも大切で、多職種連携の一員として関わる上で、医療的な視点と福祉的な視点の両方を持っていないといけないということ学ぶことができた。（薬学生）
- 2つのグループが合体しグループワークを行ったが、意思疎通やコミュニケーションはすんなりととれた。それぞれの主張を尊重し、どれだけ相手の考えを自分の考えとすり合わせるができるか、実際にチームとして治療に取り組んでいくときの大変さを改めて感じたグループワークだった。（歯学生）
- 実習に参加するまで地域包括支援センターについてほとんど知識がなかったが、実際の現場を見ることで詳しく知ることができた。地域の現状を知り、対応策などを考えて地域の人々と密接に関わる仕事をしているのだと感じた。地域包括支援センターが活発に機能することで高齢者の生活は守られ、介護保険などの負担も減少するのだと改めて学ぶことができた。（栄養学生）

合同授業（応用力）

「薬物治療実践学」

概要

超高齢社会における在宅療養を支援することは重要である。そのため、在宅療養支援に携わるそれぞれの専門職の職能を理解して行動できる次世代の医療職（薬剤師）を育成する。

授業のねらい

薬学生に対しては「薬局薬剤師の職能に関するアドバンス教育」を行う。

授業方法(学習指導法)

スライドを使った講義と受講者による小グループ討論を行う。

到達目標

在宅療養支援に携わるそれぞれの専門職の職能を理解し、地域医療の中で薬局薬剤師が取り組む共同薬物治療管理（CDTM）の内容について説明できる。地域医療の中での医療・介護・福祉の専門職間の連携（多職種協働）の重要性と薬局薬剤師、看護師、医師等のそれぞれの専門職が果たすべき役割について説明できる。

科目

開講期間：平成25年4月15日（月）～平成25年4月22日（月）

開講場所：長崎大学

単 位：1単位（必修科目）

対 象：長崎大学薬学部薬学科6年次の学生

授業計画

回	内 容	
1	これからの地域薬局のあり方と薬局薬剤師の目指す薬物治療	薬剤師の大学教員による講義
2	薬局薬剤師が支援するセルフメディケーション	薬局薬剤師による講義
3	在宅ケアにおける看護職との連携	看護職の大学教員による講義
4	高齢者の在宅ケア	医師の大学教員による講義
5	薬局薬剤師が始めるフィジカルアセスメント	薬局薬剤師による講義
6	在宅ケアにおけるチーム医療Ⅰ	グループでの討論
7	在宅ケアにおけるチーム医療Ⅱ	グループでの討論
8	総合演習	全体での討論
評価	授業に対する積極的な態度…50% レポート…50%	
備考	毎回の授業内容を整理・記録して、その都度復習を十分に行うこと 「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」及び「長崎薬学・看護学連合コンソーシアム」が提供する授業として「NICEキャンパス長崎」へ登録している科目	

※長崎大学薬学部 平成25年度シラバスより抜粋

「在宅看護論」

概要

疾病や障害をもつ人々が地域で生活する意義と家族を1つの単位としてとらえケアしていく意義を理解する。また、在宅看護の役割と課題を理解し、在宅看護の成立要件や地域社会における在宅看護の必要性和在宅看護を支える諸制度について学習する。

到達目標

1. 在宅看護の提供の場と特徴について説明することができる。
2. 対象の健康問題について把握することができる。
3. 在宅における個々の療養者の状況に応じた看護計画の立案ができる。
4. 必要な看護支援技術の展開を考えることができる。
5. 療養者の健康問題解決にあたって、必要な社会資源を把握し、保健医療福祉の連携のあり方について考えることができる。

科目

開講期間：平成25年10月2日（水）～平成26年1月28日（火）

開講場所：長崎県立大学

単 位：2単位（専門必修科目）

対 象：長崎県立大学看護栄養学部看護学科2年次の学生

授業計画

回	内 容	
1	在宅ケアと在宅看護	在宅ケア・在宅看護・訪問看護の定義や関連について
2	在宅看護の歴史と現状	日本の社会的背景と在宅看護の関連について
3	在宅看護の倫理と基本理念	療養者や家族を中心とした医療・看護について
4	在宅療養者と家族	在宅療養の成立条件と家族について
5	在宅看護の展開（看護過程）①	事例を通し在宅療養者とその家族への支援を考え、看護過程の展開方法を学ぶ（グループワーク）
6	在宅看護を提供する場と特徴	訪問看護を行う場（施設・期間）とそれぞれの特徴について
7	在宅看護の展開（看護過程）②	事例を通し在宅療養者とその家族への支援を考え、看護過程の展開方法を学ぶ（グループワーク）
8	在宅療養を支える看護	訪問看護ステーションについて
9	在宅看護の展開（看護過程）③	事例を通し在宅療養者とその家族への支援を考え、看護過程の展開方法を学ぶ（グループワーク）
10	在宅ケアシステム	事例をもとに関係者や関連機関について
11	在宅ケアの連携とマネジメント	連携とマネジメントの意義と実際
12	在宅ケアを支える制度と社会資源①	対象別（高齢者・障害者・子どもなど）による制度と社会資源
13	在宅ケアを支える制度と社会資源②	在宅療養者の権利擁護
14	在宅看護の展開（看護過程）発表①	グループワークで行った看護過程の発表
15	在宅看護の展開（看護過程）発表②	グループワークで行った看護過程の発表
評 価	定期試験…70%	レポート…20% 出席状況…10%

※長崎県立大学看護栄養学部 平成25年度シラバスより抜粋

「在宅がん治療特論」

概要

在宅移行予定のがん患者に対するケアの方針を、多職種からなるチームで構築する。最終発表は模擬カンファレンスの形式で行う。

一般目標

将来のチーム医療実践に向けて、患者および家族の情報を共有し、ケアの方針をたてる過程および模擬カンファレンスを経験することにより、各自の専門性を発揮しつつ、医療チームとして質の高い医療を提示する能力を習得する。

科目

開講期間：平成25年10月26日（土）～平成25年11月30日（土）

開講場所：長崎大学薬学部、長崎国際大学薬学部

単 位：2単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生で、医療・保健・福祉・介護等の学科を専攻している3年次以上の学生

日程

開講日・開講場所	内 容
1回目(10月26日) 長崎国際大学	9:00～ オリエンテーション、自己紹介 9:30～ レクチャー ①在宅がん治療 ②介護保険制度 ③退院支援と退院調整 11:00～ 事例1の提示と教員による模擬カンファレンス(退院支援) 13:00～ 教員による模擬カンファレンス(退院前カンファレンス) 13:45～ 事例2の提示 患者全体像の把握、学習項目の抽出 16:00～ 解散
2回目(11月9日) 長崎大学	9:00～ オリエンテーション、自己紹介 9:30～ レクチャー ①在宅がん治療 ②介護保険制度 ③退院支援と退院調整 11:00～ 事例1の提示と教員による模擬カンファレンス(退院支援) 13:00～ 教員による模擬カンファレンス(退院前カンファレンス) 13:45～ 事例2の提示 患者全体像の把握、学習項目の抽出 16:00～ 解散
3回目(11月16日) 長崎国際大学	9:00～ グループ内で自己学習の成果報告、発表準備 13:00～ 模擬カンファレンスとパワーポイントによる発表、発表に対する質問、フィードバック
4回目(11月30日) 長崎大学	9:00～ グループ内で自己学習の成果報告、発表準備 13:00～ 模擬カンファレンスとパワーポイントによる発表、発表に対する質問、フィードバック

履修生内訳

所 属		人 数
長崎大学	医学部（保健学科）	1名
	薬学部（薬学科）	6名
長崎国際大学	薬学部（薬学科）	5名
	人間社会学部（社会福祉学科）	2名
合計		14名

聴講生内訳

所 属	人 数
長崎大学医学部（保健学科）	2名
長崎大学薬学部（薬学科）	1名
長崎国際大学大学院人間社会学研究科	2名
合計	5名



受講生の感想（一部抜粋・編集）

- それぞれの職種により患者さんの見方も変わればアドバイスすることも異なるという、一見当たり前聞こえることでも実際にその立場で考えることでより実感し、医療チームが一丸となって在宅での療養を支えているということに気づくことができた。これから医療現場で働く上で、薬剤師だけではなく他の医療スタッフがどんな役割を持つのか知っておかなければならないと思う。様々な職種に触れることができた今だからこそ、それぞれの持つ役割についてさらに知識を深めたいと思う。（薬学生）
- カンファレンスというものに参加するのは初めてだった。近年、退院カンファレンスに保険点数が付けられることにより、他職種とのチーム連携が不可欠になるという医療の流れの中で、学生のうちに実際に体験できる立場に恵まれ幸運だと考える。（看護学生）
- 福祉と医療が連携して取り組まなければいけない事例において、実際に各職種の役割を割り当てられ、担当した患者さんをどのような視点で見て支援していくべきなのかということに迷いがあった。今回体験したことをバネに、どのような場面でも患者さんや利用者さんを総合的な面から捉え、情報の分析や課題をあきらかにしていけるような支援者になれるよう、今後の課題に取り組んでいきたい。（社会福祉学生）

合同実習（実践力）

「在宅がん医療・緩和ケア合同実習トライアル」

目的

本実習は、医療・保健・福祉等の学科を専攻している学生が、自己の目指す専門性を伸ばすとともに、がん患者に対する病院から在宅へ切れ目のない療養支援や在宅緩和ケアにおけるチームアプローチについて学ぶことを目的とする。そのため、長崎大学病院や在宅療養支援(歯科)診療所などでの実習を行う。また、他大学の他学科生とのグループによる共同作業を通して、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門職としての主体性・協調性を修得することがねらいである。

一般目標

病院から在宅へ切れ目のない支援や在宅がん医療・緩和ケアにおける多職種協働の実際や重要性について理解する。

行動目標

- ①在宅療養者およびその家族が必要としている在宅がん医療・緩和ケアの内容について述べる（知識）
- ②病院から在宅への切れ目のない療養支援の内容について述べる（知識）
- ③在宅がん医療・緩和ケアにおけるチームアプローチについて述べる（知識）
- ④学外で学ぶ上で、学生としての適切な態度・マナーに配慮する（態度）
- ⑤グループで学習成果をまとめ、全員で討議することで、学びを発展させる（態度）

科目

開講期間：平成26年3月12日（水）～平成26年3月14日（金）

開講場所：長崎大学病院、在宅療養支援（歯科）診療所、長崎大学薬学部、長崎国際大学薬学部

対象：長崎大学・長崎県立大学・長崎国際大学にて医学・歯学・看護学・理学療法学・作業療法学・栄養学・福祉学を専攻する高学年次（原則）の学生

日程

実習日・実習場所	内容
1日目(3月12日) 長崎大学病院	9:00～ オリエンテーション 10:00～ セミナー 13:00～ 実習(診療科、診療部門、チームなど) 16:00～ オープンカンファへ参加(地域医療連携センター) 17:00～ 解散
2日目(3月13日) 長崎地区の在宅療養支援 (歯科)診療所等	9:00～ 実習 ・在宅療養支援診療所 ・在宅療養支援歯科診療所 17:00～ 長崎大学薬学部にて解散
3日目(3月14日) 長崎国際大学	10:00～ グループワーク 13:00～ 発表準備 14:00～ 学習報告会

参加学生内訳

所属		人数
長崎大学	医学部(医学科、保健学科)	6名
	歯学部(歯学科)	3名
	薬学部(薬学科)	6名
長崎国際大学	薬学部薬学科	2名
	健康管理学部(健康栄養学科)	1名
	人間社会学部(社会福祉学科)	3名
合計		21名

